

第4 付録

資料1 調査票その他の調査関係資料

a.依頼文書(電子メールによる)

平成25年度内閣府青年国際交流事業フォローアップ調査について(協力依頼)

日本青年国際交流機構
事務局長 本田 温子

平成20年度から平成24年度までの
青年社会活動コアリーダー育成プログラム
既参加青年 各位
(bccでお送りしています)

皆様におかれましては、ますます御活躍のことと存じます。

さて、下記依頼文書にあります通り、内閣府では、内閣府青年国際交流事業の既参加日本青年を対象に、フォローアップ調査を実施することとなりました。本調査の集計は、(一財)青少年国際交流推進センターが取り扱います。

調査の対象は、
平成20年度から平成24年度までの青年社会活動コアリーダー育成プログラム既参加者
としています。

この調査には、会員の皆様の事業参加による意識・行動の変化とその後の社会における活躍の状況等についての情報を収集することに焦点を置いた、次の4項目についての質問が14問あります。

1. 内閣府事業への参加とあなたの成長について
2. 内閣府事業での経験がどのように役立ったかについて
3. 事業参加後の国内外のネットワークについて
4. 事業参加後、あなたの体験をどのように伝えたかについて

尚、この調査によって、事業の効果を的確に把握することで、今後の事業予算に関する検討及び事業の更なる改善と発展、そして事後活動の活性化に活用されます。

オンラインフォーマット

<https://ssl.formman.com/form/pc/ip3scwdGSvNI8L8e/>

オンラインフォーマットでの回答を基本としておりますが、諸事情によりインターネットからの入力が難しい方は、こちら
http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/doc/cao_questionnaire2.pdf
よりアンケートファイルをダウンロードしてご記載の上、メール(hq@iyeo.or.jp)またはFAX(03-3639-2436)へ送信ください。

御自身の回答はもちろん、同期のみなさんにも声をかけて、積極的に

御協力ください。

半数以上の回収率が必要とされています。期日までにより多くの方々の御回答を
いただくよう御協力をお願いします。

本件についての問い合わせ連絡先：

(一財)青少年国際交流推進センター

フォローアップ調査担当

hq@iyeo.or.jp TEL03-3249-0767 FAX03-3639-4236

以下、内閣府からの依頼 = = = = =

平成 25 年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査について

各 位

日頃より内閣府青年国際交流事業に御理解、御協力いただき、まことに
ありがとうございます。

このたび内閣府は、内閣府青年国際交流事業の既参加日本青年を対象に、
フォローアップ調査を実施することといたしました。本調査を実施することにより、
既参加青年の皆様が事業参加による意識・行動の変化とその後の社会に
おける活躍の状況等についての情報を収集することにより、事業の効果を
的確に把握し、今後の予算に関する検討及び事業の更なる改善、そして
事後活動の一層の推進に資することとしています。

皆様も御存じのとおり、内閣府青年国際交流事業においては、事業参加は
ゴールではなく、その後の社会貢献を行うためのスタートと位置づけています。
加青年のその後の活躍状況について正確な情報を得ることは、事後活動の
推進と並んで内閣府の重要な責務と考えていますので、積極的に御協力
いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

< 回答をいただくにあたって >

集計作業は、一般財団法人青少年国際交流推進センターで行います。

アンケートへの回答は、平成 26 年 3 月 3 日(月)10 時までをお願いいたします。

なお、ご本人確認のために氏名等をお伺いしていますが、返信していただいた
アンケート内容は、集計結果が公表されることはありませんが、氏名入りの回答が
外部に公表されることはありません。

内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)

青年国際交流担当参事官付 参事官補佐(国際企画担当)

大部 沙絵子

(以上)

平成25年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査②

平成20年度から平成24年度までの青年社会活動コアリーダー育成プログラム既参加者各位

日頃より内閣府青年国際交流事業に御理解、御協力いただき、まことにありがとうございます。

このたび内閣府は、内閣府青年国際交流事業の既参加日本青年を対象に、フォローアップ調査を実施することいたしました。本調査を実施することにより、既参加青年の皆様の事業参加による意識・行動の変化とその後の社会における活躍の状況等についての情報を収集することにより、事業の効果を的確に把握し、今後の予算に関する検討及び事業の更なる改善、そして事後活動の一層の推進に資することとしています。

皆様も御存知のとおり、内閣府青年国際交流事業においては、事業参加はゴールではなく、その後の社会貢献を行うためのスタートと位置づけています。参加青年のその後の活躍状況について正確な情報を得ることは、事後活動の推進と並んで内閣府の重要な責務と考えていますので、積極的に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

<回答をいただくにあたって>

○集計作業は、一般財団法人青少年国際交流推進センターで行います。

○アンケートへの回答は、平成26年3月3日(月)10時までにお願いいたします。

○なお、ご本人確認のために氏名等をお伺いしていますが、返信していただいたアンケート内容は、集計結果が公表されることはありませんが、氏名入りの回答が外部に公表されることはありません。

内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)
青年国際交流担当参事官付 参事官補佐(国際企画担当)
大部 沙絵子

※対象となっている事業と年度を下記URLのPDFファイルで確認することができます。(URLをコピーしてご覧ください)

http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/doc/hayami_cao_questionnaire2.pdf

フォームの記入画面へ行く

記入をやめる

c. 調査票 - オンラインフォーマット 回答用紙

平成25年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査②

氏名 **【必須】**

姓: _____ 名: _____
アンケート結果には反映されません

メールアドレス **【必須】**

アンケート結果には反映されません

質問0-1: あなたの性別を以下から選んでください。 **【必須】**

ア: 男
 イ: 女

質問0-2: あなたが事業に参加した時の所在地を教えてください。 **【必須】**

▼選択してください

質問0-3: あなたが事業に参加した時の御職業を教えてください。 **【必須】**

ア: 学生
 イ: 自営業
 ウ: 会社員
 エ: 団体職員
 オ: 公務員
 カ: その他

質問0-3でその他を選んだ方は具体的に記述してください。

質問0-4: あなたが参加した年度を以下から選んでください。 **【必須】**

ア: 平成20年度
 イ: 平成21年度
 ウ: 平成22年度
 エ: 平成23年度
 オ: 平成24年度

質問0-5: あなたが参加した活動分野を以下から選んでください。 **【必須】**

ア: 高齢者関連
 イ: 障害者関連
 ウ: 青少年関連

質問0-6: あなたの現在の年齢を教えてください。 **【必須】**

(平成26年2月1日現在)

ア: 29歳以下
 イ: 30～34歳
 ウ: 35～39歳
 エ: 40歳以上

質問0-7: あなたの現在のお勤め先を教えてください。 **【必須】**

▼選択してください

質問0-8: あなたの現在の職種を教えてください。複数ある場合は、該当するものすべてを選んでください。 **【必須】**

ア: 介護職(高齢者領域)
 イ: 介護職(障害者領域)
 ウ: 看護職
 エ: リハビリ関連職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等)
 オ: 相談員・生活支援員・指導員
 カ: ケアマネジメント職(介護支援専門員等)
 キ: 教員
 ク: 事務職

- ケ：研究職
- コ：所属企業・団体の代表・役員
- サ：自営業
- シ：学生
- ス：専業主婦・主夫
- セ：その他
- ソ：無職

質問0-8でその他を選んだ方は具体的に記述してください。

内閣府事業への参加とあなたの成長についてお伺いします。

質問1：あなたが参加した内閣府事業において、以下の(1)から(12)までに掲げる項目に関する自らの成長への効果について、5～1のうち該当すると思われるものをそれぞれにチェックを付けてください。

(1)：コミュニケーション力 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(2)：リーダーシップ 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(3)：問題解決力（目前の課題を解決するために創意工夫する力） 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(4) 異文化に対応する能力 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(5) 主体性・積極性 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(6) 自分に対する自信 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(7)：企画力 【必須】

- 5：著しく大きな効果があった
- 4：大きな効果があった
- 3：効果があった
- 2：あまり効果がなかった
- 1：効果がなかった

(8)：積極的な発言力 【必須】

- ◎5: 著しく大きな効果があった
- ◎4: 大きな効果があった
- ◎3: 効果があった
- ◎2: あまり効果がなかった
- ◎1: 効果がなかった

(9) : チャレンジ精神 【必須】

- ◎5: 著しく大きな効果があった
- ◎4: 大きな効果があった
- ◎3: 効果があった
- ◎2: あまり効果がなかった
- ◎1: 効果がなかった

(10) : 計画性 【必須】

- ◎5: 著しく大きな効果があった
- ◎4: 大きな効果があった
- ◎3: 効果があった
- ◎2: あまり効果がなかった
- ◎1: 効果がなかった

(11) : 専門知識・技能 【必須】

- ◎5: 著しく大きな効果があった
- ◎4: 大きな効果があった
- ◎3: 効果があった
- ◎2: あまり効果がなかった
- ◎1: 効果がなかった

(12) : マネジメント能力 【必須】

- ◎5: 著しく大きな効果があった
- ◎4: 大きな効果があった
- ◎3: 効果があった
- ◎2: あまり効果がなかった
- ◎1: 効果がなかった

内閣府事業での経験がどのように役立ったかについてお伺いします。

質問2: あなたは、事業への参加後、参加前に比べ、社会のために役立つ行動をしようとする意欲が強くなりましたか。 【必須】

- ◎ア: とても強くなった
- ◎イ: どちらかといえば強くなった
- ◎ウ: 変わらない
- ◎エ: どちらかといえば弱くなった
- ◎オ: とても弱くなった

質問3: 内閣府事業への参加経験は、今の仕事等に役立っていると思いますか。 【必須】

- ◎ア: 非常に役立っている
- ◎イ: 役立っている
- ◎ウ: どちらもしない
- ◎エ: あまり役立っていない
- ◎オ: 全く役立っていない

質問4: 質問3でア又はイを選んだ方にお聞きします。内閣府事業への参加経験は、どのような形で役立っていますか。次の項目が当てはまれば「はい」を当てはまらなければ「いいえ」を選択してください。

質問3でウ、エ、オを選んだ方はすべて「いいえ」を選択してください。

ア: 内閣府事業に参加したことで、仕事等に対する意欲が高まった 【必須】

- ◎はい
- ◎いいえ

イ: 内閣府事業で学んだ各分野に関する専門知識が役立っている 【必須】

- ◎はい
- ◎いいえ

ウ：内閣府事業で学んだマネジメント能力が役立っている 【必須】

- はい
- いいえ

エ：内閣府事業参加中に築いたネットワークが役立っている 【必須】

- はい
- いいえ

オ：内閣府事業で学んだ人材育成のノウハウが役に立っている 【必須】

- はい
- いいえ

カ：内閣府事業で学んだボランティアのいかし方が役に立っている 【必須】

- はい
- いいえ

キ：その他において役立った 【必須】

- はい
- いいえ

上記キ：その他で「はい」を選んだ方は具体的に記述してください。

質問5：質問3でウ～オを選んだ方にお聞きします。内閣府事業への参加経験が役に立っていないのは、どのような理由ですか。次の項目が当てはまれば「はい」を当てはまらなければ「いいえ」を選択してください。

質問4でア、イを選んだ方はすべて「いいえ」を選択してください。

ア：現在、参加した分野と関係のない仕事等を行っている 【必須】

- はい
- いいえ

イ：内閣府事業への参加で、活用できる知識や技能を得られなかった 【必須】

- はい
- いいえ

ウ：訪問国と日本の環境が違いため、学んだ知識や技能を活用できる状況にない 【必須】

- はい
- いいえ

エ：現在、所属している組織等に、新たな知識や技能を取り入れる風土がない 【必須】

- はい
- いいえ

オ：多忙のため、学んだ知識や技能を活用する余裕がない 【必須】

- はい
- いいえ

カ：その他において役立っていない 【必須】

- はい
- いいえ

上記カ：その他で「はい」を選んだ方は具体的に記述してください。

質問6：今後、内閣府事業への参加経験をどのように活用していきたいと思っておりますか。あてはまるものすべてを選んでください。次の項目が当てはまれば「はい」を当てはまらなければ「いいえ」を選択してください。

ア：現在の所属組織等の中で、学んだ知識や技能、考え方を活かしていきたい 【必須】

- はい
- いいえ

イ：卒業への参加経験をもとに、各分野での人材育成に取り組みたい 【必須】

- はい
- いいえ

ウ：報告会・勉強会の開催等を通じて、地域に貢献していきたい 【必須】

- はい
- いいえ

エ：学んだ知識や技能、考え方をもちに、本の出版・セミナー等を通じ、広く世の中に呼びかけていきたい 【必須】

- はい
- いいえ

オ：卒業で得た知識や人脈を活用し、新たな活動の立ち上げなどの行動を起こしたい 【必須】

- はい
- いいえ

カ：独自の招へい卒業等により、訪問国やその他の国の先進的な取組を継続的に学びたい 【必須】

- はい
- いいえ

キ：その他において活用していきたい 【必須】

- はい
- いいえ

キ：その他で「はい」を選んだ方は具体的に記述してください。

卒業参加後の国内外のネットワークについてお伺いします。

質問7：内閣府卒業で出会った外国の方（招へい外国青年・派遣国での訪問先の方等）のうち、年に1回以上、個人的なやり取りをしている方は、何人程度ですか。宴会・電話・電子メール・SNS等、連絡の手段は問いません。 【必須】

- ア：100人以上
- イ：50～99人
- ウ：10～49人
- エ：5～9人
- オ：1～4人
- カ：0人

質問8：質問7で1人以上の方とやり取りしていると答えた方（ア～オを選択した方）にお伺いします。最も高い頻度で連絡を取っている方との交流の程度はどのようなものですか。

- ア：一緒に活動している仲間である
- イ：日常的に連絡を取っている
- ウ：月に1回程度連絡を取っている
- エ：年に数回程度連絡を取っている
- オ：年に1回程度連絡を取っている

質問9：内閣府卒業で出会った日本人（団長・日本参加青年・NPOマネジメントフォーラム参加者・奨参加青年等）のうち、年に1回以上、個人的なやり取りをしている方は、何人程度ですか。宴会・電話・電子メール・SNS等、連絡の手段は問いません。 【必須】

- ア：100人以上
- イ：50～99人
- ウ：10～49人
- エ：5～9人
- オ：1～4人
- カ：0人

質問10：質問9で1人以上の方とやり取りしていると答えた方（ア～オを選択した方）にお伺いします。最も高い頻度で連絡を取っている方との交流の程度はどのようなものですか。

- ア：一緒に活動している仲間である
- イ：日常的に連絡を取っている
- ウ：月に1回程度連絡を取っている
- エ：年に数回程度連絡を取っている
- オ：年に1回程度連絡を取っている

事業参加後、あなたの体験をどのように伝えたかについてお伺いします。

質問11：あなたは、事業への参加で学んだ知識や考え、経験について、自分の周囲に伝えましたか。伝えた場合、どんな人に伝えましたか。あてはまるものすべてを選んでください。【必須】

- ア：自分の所属組織の職員等
- イ：自分の所属組織以外の同業者
- ウ：地域の人々
- エ：友人
- オ：家族
- カ：不特定多数の一般の方
- キ：その他
- ク：特に伝えていない

上記キ：その他で「はい」にチェックした方は具体的に記述してください。

質問12：質問11でア～キを選んだ方にお聞きします。あなたが、事業への参加で学んだ知識や考え、経験を伝えたのべ人数について、おおよそのところを教えてください。

- ア：50人以上
- イ：40～49人
- ウ：30～39人
- エ：20～29人
- オ：10～19人
- カ：9人以下

質問13：質問11でア～キを選んだ方にお聞きします。あなたは、事業への参加で学んだ知識や考え、経験をどんな手段で自分の周囲に伝えましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

- ア：本の出版
- イ：雑誌・専門誌等での報告・論文の発表
- ウ：学会での報告・発表
- エ：一般向けの報告会・シンポジウム等の開催
- オ：専門家向けのセミナー・ワークショップ・報告会等の開催
- カ：メールマガジンやブログ、SNS等インターネット上での報告
- キ：個人的なやり取り（口頭、電話、電子メール等を含む。）
- ク：その他

上記ク：その他で「はい」を選んだ方は具体的に記述してください。

質問14：その他、内閣府事業に関する御意見を自由に記入してください。

内容確認

書き直し